



久比岐野 川街道

関川の恵みに感謝し、
再び災害が起こらないよう
祈りを込めて



関川を見守る一里塚



あれから20年 あの経験を未来のために

【関川・姫川「7.11水害」20年事業 現地見学会 ◎主催／関川・姫川7.11水害20年事業
実行委員会 構成：関川・姫川水防連絡会(国土交通省高田河川国道事務所、新潟県上
越地域振興局地域整備部・農林振興部、糸魚川地域振興局地域整備部、上越市、妙高
市、糸魚川市、上越地域消防事務組合、中部電力(株)塩尻電力センター)、新潟県上越地
域振興局妙高砂防事務所、新潟日報社上越支社、上越ケーブルビジョン(株)、上越教育
大学

◎協賛／(一社)北陸地域づくり協会

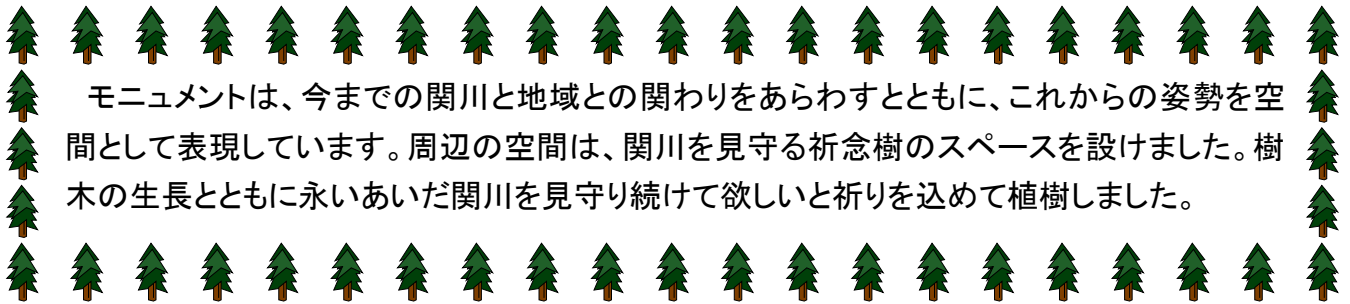


久比岐野川街道 ～関川を見守る一里塚～



関川の恵みに感謝し、再び災害が起こらないことへの祈りを込めて

「川と人が離れている。」「関係が希薄になっている。」関川の災害復旧を契機に川と人との関わりを見直し、再構築できないか。そんな思いを住民と企業、行政が一緒になって実現したのが「一里塚ワークショップ」です。ワークショップで6箇所のデザイン案を作成し、残り5箇所は周辺にお住まいの方々にインタビューをおこない、専門家の案を参加者の皆さんと評価しながらコンセプトやデザインを決めていきました。



関川災害復旧助成事業「統一シンボルマーク」

関川をアルファベットの「S」で表し、右の濃い青が災害後の荒れた川を表現し、左の水色は復旧後の穏やかな川を表現しています。なめらかな「S」は人にやさしく、人と川とが共存できる川になるようにとの願いを込めています。中心の赤い円は災害復旧助成事業に携わるたくさんの人たちの情熱を表しています。地域の人々をはじめ、たくさんの方の思いを一つにして、災害の復旧工事はおこなわれました。



月岡の破堤状況(7月12日)



泉橋付近の状況

【7.11水害 20年事業 現地見学会】

◎主催／関川・姫川7.11水害20年事業実行委員会

構成：関川・姫川水防連絡会(国土交通省高田河川国道事務所、新潟県上越地域振興局地域整備部・農林振興部、糸魚川地域振興局地域整備部、上越市、妙高市、糸魚川市、上越地域消防事務組合、中部電力(株)塩尻電力センター)、新潟県上越地域振興局妙高砂防事務所、新潟日報社上越支社、上越ケーブルビジョン(株)、上越教育大学

◎協賛／(一社)北陸地域づくり協会

久比岐野川街道一里塚 1. 島田(上越市島田地内 島田橋下流左岸)

北緯37度4分43.64秒 東経138度16分45.75秒付近 日本海より13.1km



■一里塚のテーマ “語らい”

島田地区は、かつて関川が自由に流れていた頃に河原を開墾してできた集落です。先人たちは関川の恩恵を受け、時には水害と戦い、関川とともに歩んできました。この一里塚は、これからも関川とともに歩むうえで、川や自然の大切さ、育み培ってきた地域の歴史、親から子への希望を語り継ぐ空間としました。

■モニュメント

広場の6体のモニュメントは、人、親子、家族が語り合う姿を半具象的に表現しています。皆が輪になって語り合えるようにベンチとしても利用できます。

■祈念樹

柔らかく暖かみのある樹形の“ケヤキ”を祈念樹としました。



久比岐野川街道一里塚 2. 田井(上越市板倉区田井地内 島田橋上流右岸)

北緯37度4分4.19秒 東経138度6分50.39秒付近 日本海より14.3km



■一里塚のテーマ “舟運”

田井地区には、かつて関川が舟運に利用されていた頃の重要な船着き場がありました。米俵20俵を船に積み、直江津港から荒波を超えて江戸へ、そして帰りには塩や魚介類を積んできたと伝えられています。この一里塚は、関川の舟運に関わった田井地区の大切な歴史を伝える空間としました。

■モニュメント

このモニュメントは、船を繋ぐための“船つなぎ石”と、舟運を介して関川と深く関わった地域の人々を表現しています。河原のデッキに配置したモニュメントは、船をイメージしたものです。

■祈念樹

船着き場の水景樹として“ケヤキ”を祈念樹としました。両脇には桜の中でも特に樹齢が永い(約800年)といわれるエドヒガンを添えました。



久比岐野川街道一里塚 3. 月岡(妙高市月岡地内 広島橋上流左岸)

北緯37度2分53.87秒 東経138度16分0.62秒付近 日本海より16.8km



出典：国土地理院

■一里塚のテーマ “破堤と復旧”

平成7年7月12日の月岡地区の破堤は、下流に甚大な被害をもたらすものでした。その後の復旧によって川は整備され、ここに河川敷を利用した水辺広場ができました。この一里塚は7.11水害のメモリアル広場として、また復旧の記念として、破堤の証と復旧の喜びを刻む空間としました。

■モニュメント

丘の上のモニュメントのずれは、破堤を意味しています。関川の穏やかさと激しさは、モニュメントの内側の面と外側の面の肌触りで感じられるように表現しました。

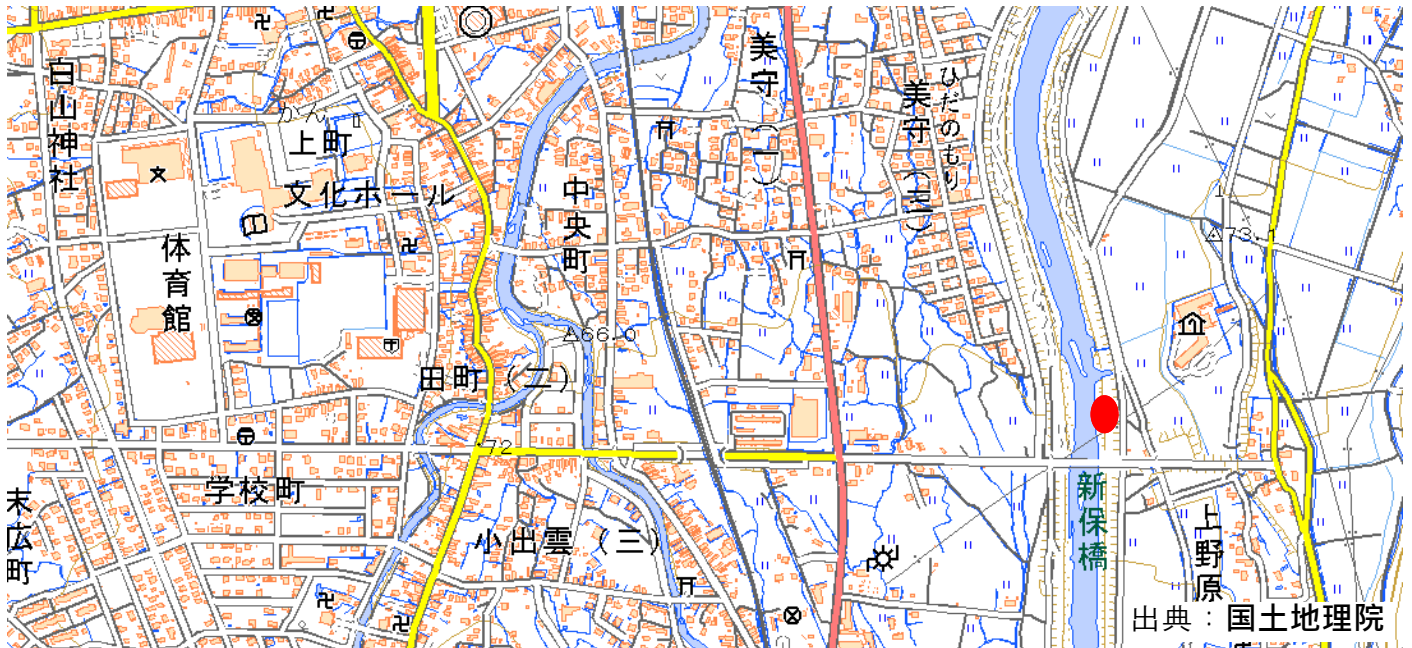
■祈念樹

7.11水害のメモリアル広場として、ともに水害の試練を乗り越えた人々の友情や、復旧に情熱を注いだ人々の友情をたたえ、「友情」という花言葉を持つ“ヤマボウシ”を祈念樹としました。



久比岐野川街道一里塚 4. 西条(妙高市西条地内 新保橋下流右岸)

北緯37度1分11.18秒 東経138度15分51.80秒付近 日本海より20.0km



■一里塚のテーマ “用水”

この場所には、上越地方最大の用水として高田平野の東部一帯を潤す中江用水の取水口がありました。中江用水は高田藩家老の小栗美作の総指揮による藩営事業として、1675(延宝3)年に完成しました。1939(昭和14)年以降は、大熊川沿川の板倉発電所付近に新たな取水口が設けられたため、ここの取水口は予備用水として利用されていました。取水口には中江用水神社を奉って先人の遺業を偲んでいましたが、7.11水害によって流されてしまいました。

この一里塚は、用水の開削に携わった先人たちの偉業と、高田平野に暮らす人々にとって重要な役割を担ってきた用水の歴史を伝える空間としました。

■モニュメント

かつて先人たちが苦労を重ねて築いた中江用水の水門をモチーフとしています。

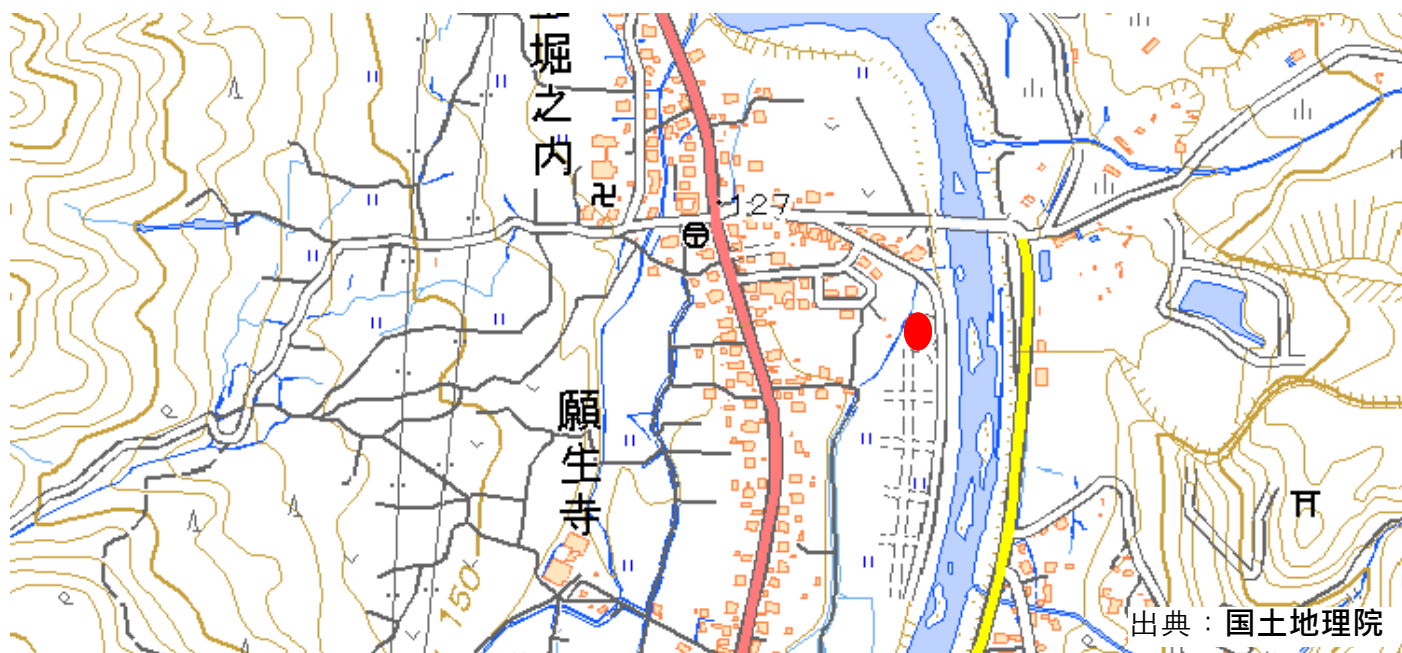
■祈念樹

水田が広がる高田平野の原風景を想い、ハサ木の代表樹“ハンノキ”を祈念樹としました。周りにはハサ木の仲間のトネリコやヤチダモを添えています。



久比岐野川街道一里塚 5. 堀之内・除戸(妙高市堀之内地内 泉橋上流左岸)

北緯36度59分10.58秒 東経138度16分26.13秒付近 日本海より24.5km



■一里塚のテーマ “泉”

この辺り一帯は泉(湧水)が多く、関川の右岸は旧称「泉村」と呼ばれていました。泉は関川と周辺の山々の恵みとして、現在も様々なところで利用されています。この一里塚は、これからも泉が涵れることなく、地域の人々に豊かな潤いをもたらしてくれることへの願いを込めて、泉を象徴する空間としました。

■モニュメント

水が湧きでる泉のイメージをらせん状の切石敷で表現しています。中央には泉の源として関川の川原石を置きました。

■祈念樹

丘の形と同じ円錐形の樹形を持ち、将来巨木となって広場のランドマークとなる“メタセコイア”を祈念樹としました。



久比岐野川街道一里塚 6. 楡島(妙高市楡島地内 猿橋下流左岸)

北緯36度57分37.42秒 東経138度16分19.53秒付近 日本海より27.5km



■一里塚のテーマ “光の道”

両側を山々に囲まれ、関川の川筋だけが開けた地形のこの地区では、下流に見える「こっば山」に陽があたることで刻を知ったと伝えられています。この一里塚は厳しい自然の中で生活する人々の知恵を伝える空間としました。

■モニュメント

モニュメントの中央に細いスリットを設け、こっば山に向かう光の道を石のラインで表現しています。

■祈念樹

特徴のある地形と景観の中で、直立する樹形が美しい“メタセコイア”を祈念樹とし、シンメトリカルな光の道を表現しました。



久比岐野川街道一里塚 7. 大鹿(妙高市大鹿地内 妙高中央橋下流右岸)

北緯36度56分35.66秒 東経138度15分7.57秒付近 日本海より30.3km



■一里塚のテーマ “魚影”

大鹿付近では、かつて漁業を生活の糧とするほどたくさんの魚が棲んでいました。この一里塚では、たくさんの魚が棲んでいたことと再びこの川にたくさんの魚たちが戻ってくることへの願いを込めて魚影を象徴する空間としました。

■モニュメント

たくさんの魚がひしめきぶつかり合う姿を、モニュメント正面の凹凸によって表現しています。凸部は魚鱗の乱反射を表し、凹部は水面に映る魚影を表現しました。

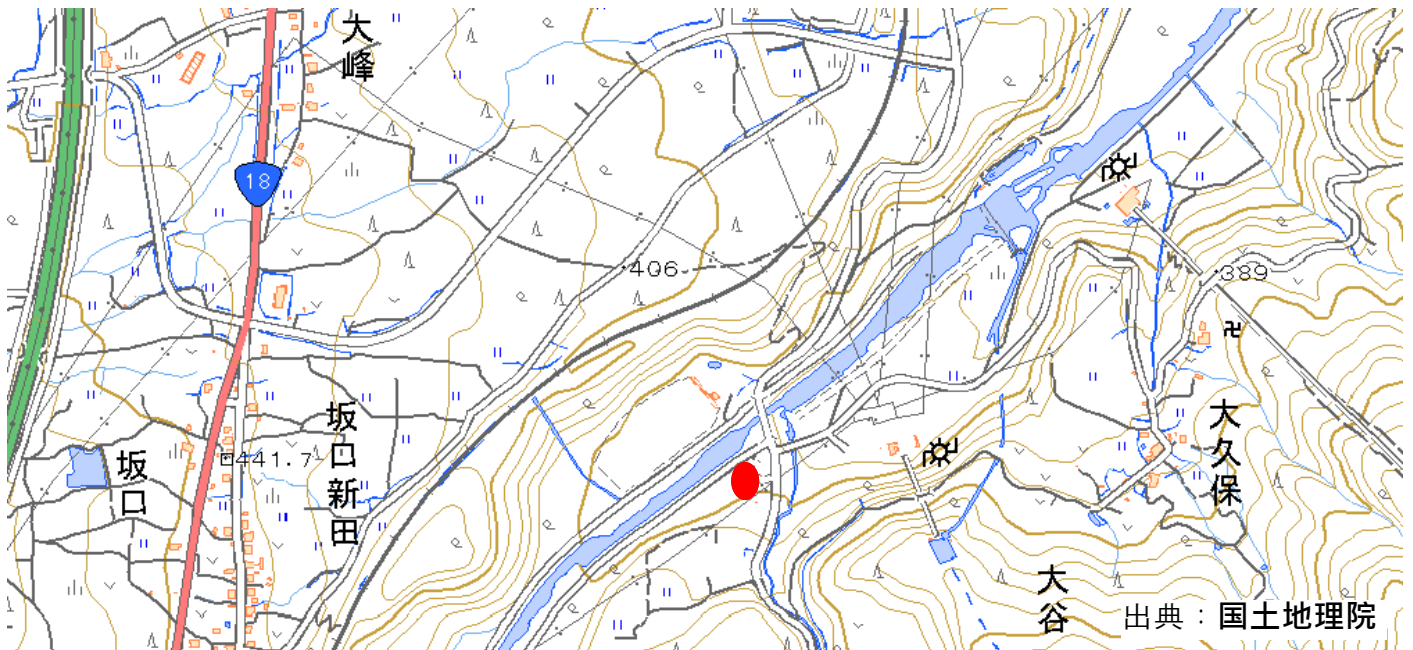
■祈念樹

渓谷の魚影にふさわしく、秋の産卵期に彩りを添える樹木として“カエデ”を祈念樹としました。



久比岐野川街道一里塚 8. 大谷(妙高市大谷地内 大谷橋上流右岸)

北緯36度54分43.79秒 東経138度13分34.68秒付近 日本海より34.9km



■一里塚のテーマ “激流”

大谷付近は、上下流に比べて流れが急で、7.11水害ではこの激流によって橋が流されてしまいました。この地区では昔から何度も橋が流され、「橋貧乏」という言葉が生まれたほどです。この一里塚は、大谷地区の人々と激流との戦いの歴史を伝える空間としました。

■モニュメント

岩間を流れ下る激流のうねりを、川街道を象徴する石張りから連続的に隆起するモニュメントとして表現しています。

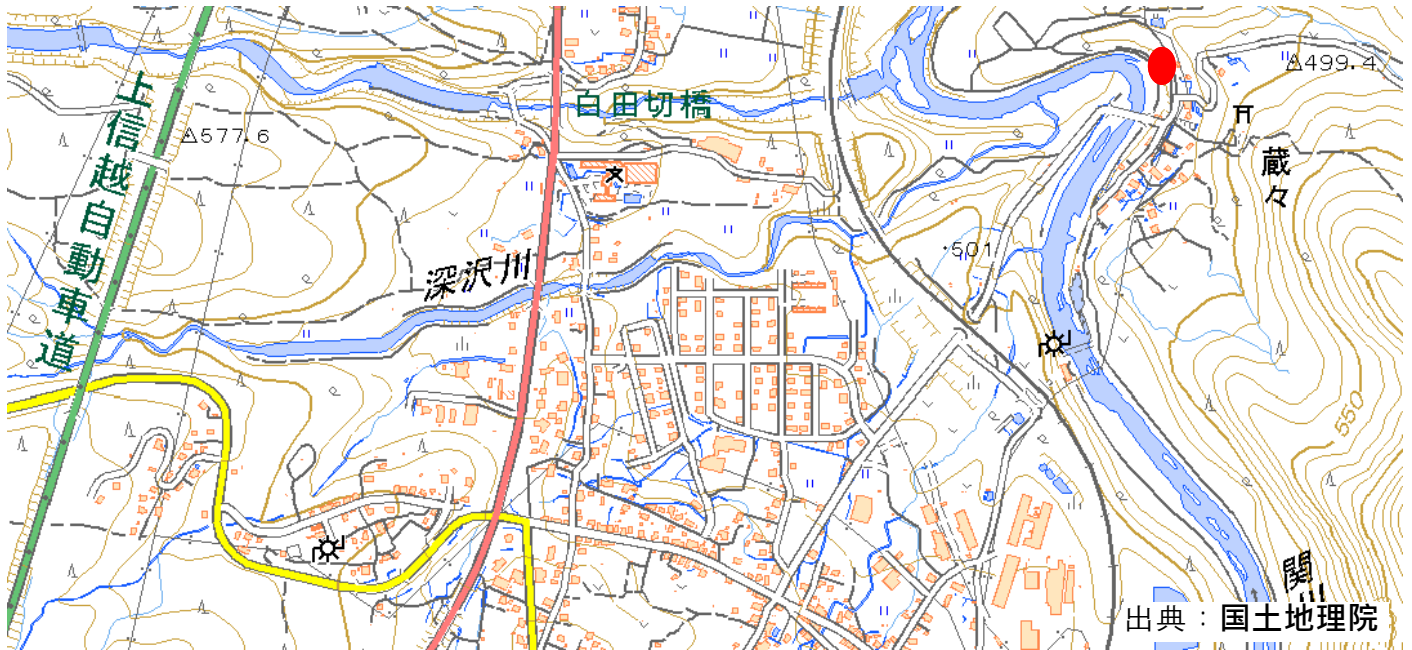
■祈念樹

激流が走る溪谷地形の中で、深山幽谷を想わせる“ブナ”を祈念樹としました。



久比岐野川街道一里塚 9. 蔵々(妙高市蔵々地内 蔵々橋下流右岸)

北緯36度53分1.34秒 東経138度12分56.44秒付近 日本海より39.4km



■一里塚のテーマ “発電”

高田平野における近代産業の発展は、発電所建設によるところが大きく、この蔵々発電所は高田平野に始めて明かりをともした発電所です。関川では1906(明治39)年に高沢発電所が建設され、翌年に蔵々発電所が完成しました。1907(明治40)年、高田の街に初めて電灯が点されたとき、人々は感動し街中に大きな歓声がかどましたそうです。この一里塚は高田平野の近代産業の礎となった発電の歴史を伝える空間としました。

■モニュメント

激流によって生まれた発電の光を浮かび上がる球体として表現しています。球体を支える部分は、妙高山の山々の荒々しさと水が流れ落ちる様子を表しています。

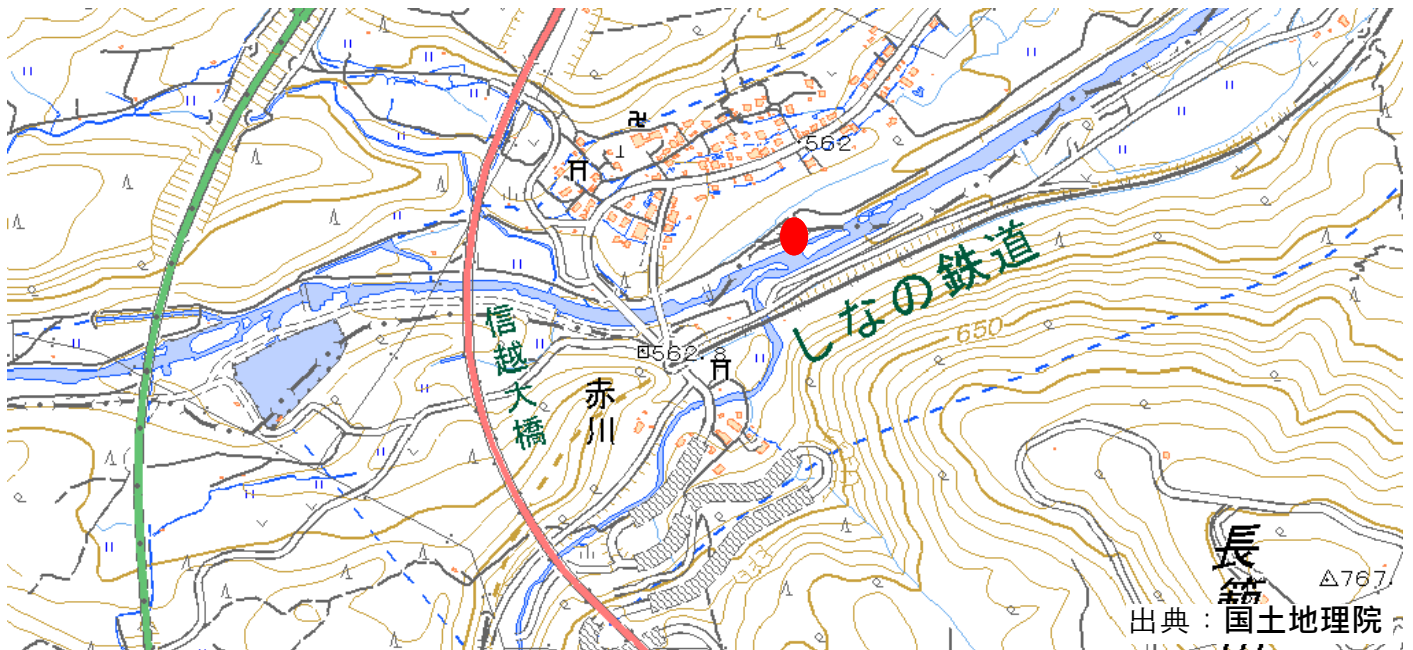
■祈念樹

背景にそびえる妙高山に合わせて、垂直にそびえ立つ樹勢の“アカエゾマツ”を祈念樹としました。



久比岐野川街道一里塚 10. 関川(妙高市関川地内 一之橋下流左岸)

北緯36度51分18.20秒 東経138度11分50.90秒付近 日本海より43.5km



■一里塚のテーマ “旅人”

関川地区には、かつて多くの旅人が行き交った北国街道の関所がありました。関所は1574(天正2)年に上杉氏によって設けられ、1697(元禄10)年に江戸幕府の所轄となりました。佐渡金山の金銀を輸送する街道の国境に位置していたため、特に重要な関所であったと伝えられています。また当時は、一之橋のほか二之橋、三之橋もありました。

この一里塚は、北国街道が関川を渡る地点として、旅人とここに暮らす人々の出会いを表現する空間としました。

■モニュメント

関所を現代風の門に見立てた円環で表現し、かつ円環はたくさんの人々の和を象徴しています。関所を通った様々な人々の出会いを石面の変化で表現しました。

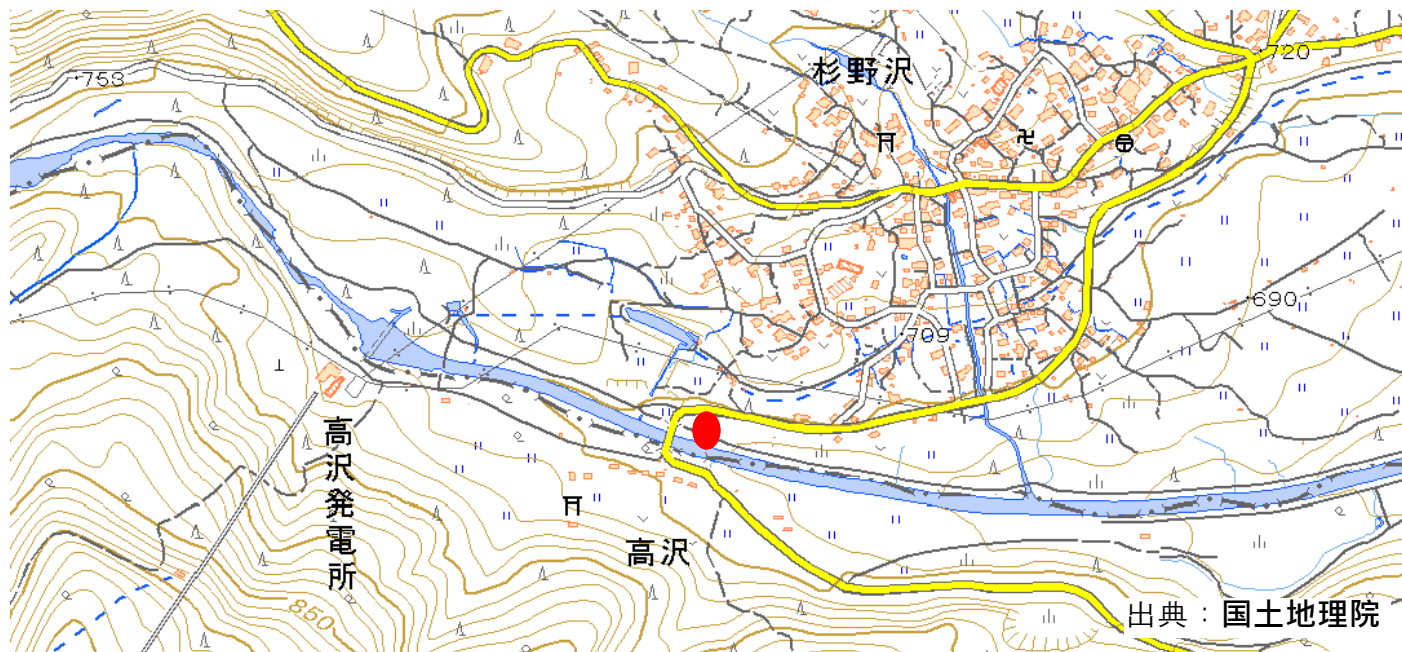
■祈念樹

旅人が空腹を癒やすために食し、山里でも貴重な食料であったとされる“トチノキ(トチグリともいう)”を祈念樹としました。



久比岐野川街道一里塚 11. 杉野沢(妙高市杉野沢地内 地震滝橋下流左岸)

北緯36度50分44.02秒 東経138度9分20.96秒付近 日本海より47.8km



■一里塚のテーマ “川の鼓動”

関川の源流に近い杉野沢地区では、川の石がとても大きく、洪水時には石のぶつかり合う音が恐ろしいほどに響きます。この音はここに暮らす人々にとって洪水の目安となり、関川にとっては流れの誕生を思わせる“川の鼓動”というべき音に感じられます。

この一里塚は、激流と石の音によってもたらされる洪水への不安を取り去り、石が持つ楽しい音を感じられる空間としました。

■モニュメント

石がぶつかり合う音を楽器に見立てたモニュメントとして表現しました。木の棒でたたくことで石の音の違いを楽しく体験できます。

■祈念樹

雪深い山々の中で豪雪に耐え、春一番に純白の花を咲かせる“コブシ”を祈念樹としました。



久比岐野川街道 一里塚

7.11水害から生まれ変わった関川への感謝と
再び水害が起こらないよう祈りを込めた一里塚

③ 破堤と復旧

妙高市月岡 月岡集落左岸



① 語り

上越市島田 島田橋下流左岸



② 舟運

上越市田井 田井集落右岸



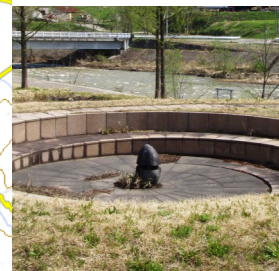
④ 用水

妙高市西条 新保橋下流右岸



⑤ 泉

妙高市上堀之内 除戸泉橋下流左岸



⑧ 激流

妙高市大谷 大谷橋上流右岸



⑥ 光の道

妙高市楡島 猿橋下流左岸



⑪ 川の鼓動

妙高市杉野沢 地震滝橋下流左岸



⑦ 魚影

妙高市大鹿 妙高中央橋下流右岸



⑨ 発電

妙高市蔵々 蔵々橋下流右岸



⑩ 旅人

妙高市関川 一之橋下流左岸



出典：国土地理院



新潟県上越地域振興局 地域整備部

〒943-8551 新潟県上越市本城町5番6号

新潟県 http://www.pref.niigata.lg.jp/jouetsu_seibi/